特殊浴槽整備事業　自己評価委員会 議事録
（2026 年度 JKA 補助事業）

日時　　2026 年 10 月 28 日　時間：13：00～13：30
場所　　研修室
参加者　実施担当者 5 名　各部代表者（事務 2 名、看護 1 名、地域 1 名、リハビリ 1 名）
議題　　特殊浴槽（シャワー入浴装置）整備事業の実施状況および自己評価の確認

1. 委員会の目的

JKA 補助事業により導入したシャワー入浴装置について、実施状況、達成状況、広報、安全面および今後の改善事項を多職種で確認し、自己評価書の内容を協議する。

2. 協議内容

＜事業内容＞

①事業の実施状況

機種選定には当初予定より時間を要したが、シャワー入浴装置の納品・導入は計画どおり完了した。導入後は週 6 日の入浴サービスに活用し、安定した入浴環境の提供につながっている。実施状況は概ね計画どおりと評価する。

②実施計画・体制

機種選定は、事務、看護、地域、リハビリの多職種で検討したことで、施設のニーズや介助方法を複数の視点から確認でき、機種選定に反映できた。多職種による実施体制を今後も継続する。

＜達成目標＞

①事業の実施結果

導入・運用開始は、工期と納品スケジュールを担当者間で共有し、入浴サービスの休止期間を可能な限り短くした。納品後も速やかに運用へ移行できた。計画的な情報共有は有効であった。

②事業の成果・波及

現時点の利用は 1 日約 15 名で、目標の 1 日 20 名には達していない。機器変更に伴い、新たな介助方法と運用体制の確立に時間を要した。

介助手順の定着後、利用拡大を進める。短期入所・通所利用者への活用は、入所利用者への運用安定後に検討する。

＜広報計画＞

ホームページへの補助事業完了のお知らせ掲載、競輪・補助事業バナーの掲載、外来待合室2か所へのポスター掲示を実施した。広報誌への紹介記事掲載は11月末を予定している。施設紹介パンフレットにも掲載した。

未実施の広報誌の発行を予定通り行い、パンフレットを今後活用していく。

＜自己評価の体制＞

看護記録、ヒヤリハット・事故報告、職員アンケートを確認し、介助手順の見直しやリハビリ職員による介護負担軽減策を検討した。継続的に記録・報告・アンケートを確認し、安全性と業務負担の両面から改善する。

促進要因は多職種による実施体制。阻害要因として、夏季の暑熱環境、利用者の体調不良、新しい介助方法への習熟に時間を要したことが挙げられた。季節や利用者の体調を踏まえて運用・手順を見直し、利用促進につなげる。

3. 評価結果

- 事業内容 ： 4
- 達成目標（導入・運用開始） ： 4
- 事業の成果・波及 ： 2
- 広報計画 ： 3
- 自己評価の体制 ： 4
- 総合評価 ： 3

4. 決定事項・今後の対応

- 介助手順の見直しと職員の習熟を継続し、1日20名の利用目標に向けて運用を安定させる
  →看護・リハビリを中心に継続
- 短期入所・通所利用者への活用は、入所利用者への運用が安定した段階で検討する。
  →実施担当者 運用安定後
- 看護記録、事故・ヒヤリハット報告、職員アンケートを継続確認し、評価委員会で検証する。
  →実施担当者で継続
- 広報誌への紹介記事を掲載し、関係者・公共施設等へ配布する。
  →2026年11月末予定
- 学校訪問・施設紹介時に、補助事業を掲載したパンフレットを活用する。
  →関係担当者が機会ごとに使用

入浴者数集計表

導入前

期間	7/27～8/23
歴日数	28日
入浴日数	24日

累計入浴者数	689
シャワー入浴装置累計入浴者数	340
平均入浴者数/日	14

導入後

期間	9/7～10/4
歴日数	28日
入浴日数	24日

累計入浴者数	706
シャワー入浴装置累計入浴者数	359
平均入浴者数/日	15

導入前

日付	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23
入浴者数	27	30	26	30	28	27	0	27	31	26	32	28	30	0	25	32	25	32	27	30	0	28	31	26	32	29	30	0
シャワー入浴装置入浴者数	13	15	13	15	14	13	0	13	15	13	16	14	15	0	12	16	12	16	13	15	0	14	15	13	16	14	15	0

導入後

日付	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4
入浴者数	26	30	26	32	28	31	0	31	29	27	32	28	31	0	28	31	27	32	29	31	0	28	31	25	32	29	32	0
シャワー入浴装置入浴者数	13	15	13	16	14	16	0	16	15	14	16	14	16	0	14	16	14	16	15	16	0	14	16	13	16	15	16	0

シャワー入浴装置の導入について（アンケート集計）

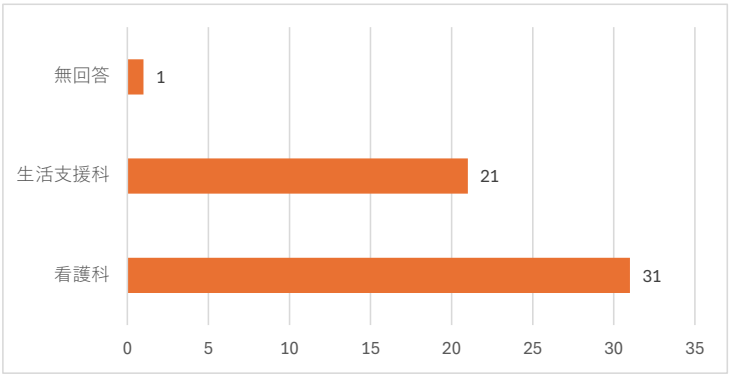
対象：看護科・生活支援科

回答数　　53/89

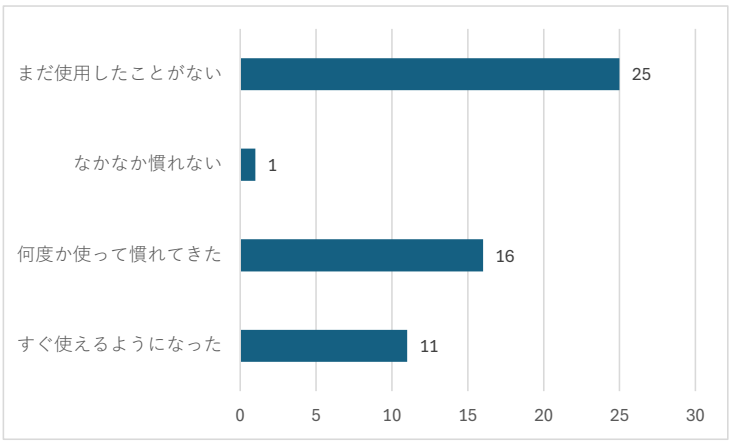
回答率　　59.50%

アンケート集計期間：10月5日～10月19日

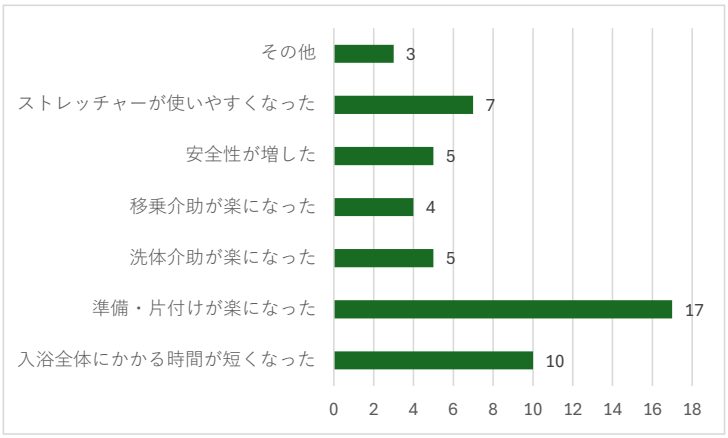
1.あなたの所属はどちらですか



2.シャワー入浴装置の操作についてお伺いします。



3.シャワー入浴装置に変更してよかった点は何ですか？（複数回答可）



＜その他の内容＞

・シャンプーなどを入れる籠がついており使いやすくなった

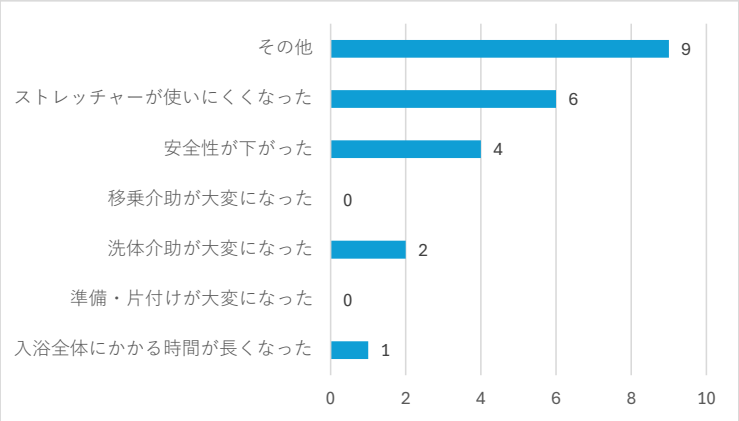
・幅が広くなって安全に介助できるようになった

・ストレッチャーのロック方法が安易になった。

・ストレッチャーの高さ調整が楽になった（電動になったため）

・ストレッチャーのバッテリが取り外せるので充電が容易になった

4.シャワー入浴装置に変更して悪かった点は何ですか？（複数回答可）



＜その他の内容＞
・ストレッチャーのクッションが２重になり泡が流れにくくなった。
・ブレーキから走行に変えるのが難しい。直進になりやすい

5.今後改善して欲しいことがあれば記入してください。

・利用者様の身体に、ストレッチャーに敷いているピンクマットの穴の跡が付きやすい為、改善出来たらよいと思います。
・ストレッチャーの柵カバーが取れやすいです。

＜評価委員会でのアンケートに対する考察＞

導入後1か月でのアンケートであったため、回答者の約半数がまだ新しい入浴装置を使用しておらず、結果の評価には留意が必要である。
一方、使用経験のある職員からは、悪かった点よりも良かった点への回答が多く、ストレッチャーの電動化や操作性の向上など、機器更新による介助負担や作業環境の改善が一定程度実感されていると考えられる。
その反面、以前のストレッチャーとの違いによる使いづらさや、安全面、洗体介助に関する課題も挙げられた。
以前の機器でも、タオルや自作カバーを使用するなど、安全性や使いやすさを高める工夫を行っていたことから、新しい機器についても、使用経験を重ねながら介助方法や手順を工夫・見直していく必要がある。
今後も定期的にアンケートを実施し、職員の意見や使用状況を確認しながら、より安全で負担の少ない入浴介助につなげていきたい。